

# 只見・笠倉沢より笠倉山

小沼 充範

■山行年月日:平成 30 年 5 月 6 日

■メンバー:小沼充範(単独)

今年は雪が多かったものの 3 月末から気温の上昇により雪解けが急速に進み、雪が少ないため五月連休はどこか山へ行こうか迷ってしまうくらいである。五月連休は前半の天気が悪く、晴れるのは 5 月 6 日だけである。季節が早く進んでいるので山菜が採れるかもしれないと考え、只見町の笠倉山へ笠倉沢の雪渓を利用して登ることにした。

手動型のゲート手前の広場に車を止め 7 時 10 分出発。5 分ほどで立安沢出合である。林道は雪で埋まっている。林道脇にはゼンマイがたくさん出ており、帰りに採ることにする。塩沢川周囲は新緑がとても美しく眩いばかりである。塩沢川右岸の山道をたどり、8 時 50 分、笠

倉沢出合にたどり着く。笠倉沢に入ると、すぐに雪渓が現れ、雪渓の上を歩いて行く。雪渓が途切れ、5m 滝が現れる。いつも懸垂下降する滝である。右岸のレンゼを登って巻いて行く。悪い雪渓が続いているようなので、さらにそのまま巻いて行く。

雪渓に下り、左岸にあるブナの大木の根元で休憩する。この先は悪場もなさそうであり、雪渓上を歩いて行けそうだ。雪渓の両側にはゼンマイが見当たらず、まだ早いようである。右岸は見上げるほどの大きな岩壁となっており、笠倉山北面の大量の雪崩が笠倉沢を 6 月末まで埋めつくすのもうなずける。雪渓が途切れ、左岸から 882m からの枝沢が 5m 滝を掛けて合流する。沢に入るため雪渓を滑り降り、左岸から雪渓に上がる。雪渓が途切れることなく 849m との鞍部まで

雪渓の笠倉沢



笠倉山北面の岩場



続いているのが見える。青空と雪渓、新緑のコントラストが美しい。雪渓の傾斜が増し、ピッケルを突き刺しながら登る。振り返ると雲河曾根山など会越国境の山々が見えてくる。

11時、849mとの鞍部にたどり着く。周囲は鶯の鳴き声でにぎやかだ。見上げると首が痛くなるほどの急な岩混じりの藪尾根を登る。岩場はホールドが豊富であり容易に登ることができる。山頂11時55分着。今回で4度目の山頂である。360度の展望台であり、越後三山、浅草岳、守門岳、矢筈岳、只見川を見渡すことができる。周囲に見える山々はやはり雪が少ない。見飽きることのない展望を楽しみ12時35分下山する。帰路は849mとの鞍部まで戻り笠倉山西側の斜面をトラバースして笠倉山南側を流れる坪安沢を下る。

鞍部から立安沢を少し下ってから斜面をトラバースして行く。先ほどの岩場

からは想像もできないブナの大木が広がっており鮮やかな新緑である。723mから東へ流れる坪安沢を確認し、支尾根を下って沢に下りる。尾根には塩沢川流域の主である「熊山金太郎」と記された切り付けを見かける。沢は雪渓で埋めつくされており、途切れた箇所は小さく巻いて行く。林道14時45分着。林道の手前でたくさんのアブラコゴミを採ることができた。林道脇にある間欠泉からお湯が湧き出しており、触ると水温30度ほどであり塩味がした。

車を止めた場所に16時10分たどり着く。塩沢川右岸の林道を南下すると寺があり、河井継之助の墓に立ち寄る。茶毘をして残った骨が埋葬されているようだ。雪渓の笠倉沢から笠倉山へ登るコースは遠回りとなるものの、初夏の新緑を楽しむことができるなかなかのルートでした。